

2017. 8

特集号



(題字：脇口宏学長)

国立大学法人  
高知大学学報

高知大学学位授与記録第八十九号

総務課広報係発行

本学は、次の者に博士（医学）の学位を授与したので、高知大学学位規則第14条に基づきその論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

\*\*\*\*\*  
 \*  
 \*  
 \*  
 \*  
 \*  
 \*  
 \*\*\*\*\*

# 高知大学学報

本学は、次の者に博士（医学）の学位を授与したので、学位規則（昭和28年文部省令第9号）第8条の規定に基づき、その論文の内容の要旨及び論文審査の結果の要旨を公表する。

## 目 次

| 学位記番号    | 氏 名                           | 学 位 論 文 の 題 目   | ページ |
|----------|-------------------------------|---|-----|
| 甲総医博第63号 | MUCHANGA SIFA<br>MARIE JOELLE | Preconception gynecological risk factors of Postpartum Depression among Japanese women: the Japan Environment and Children's Study (JECS).<br><br>(日本人女性における産後うつと妊娠前の婦人科系リスク要因 (JECS) ) | 1   |

|         |  |
|---------|--|
| 氏名(本籍)  | MUCHANGA SIFA MARIE JOELLE (コンゴ民主共和国)  |
| 学位の種類   | 博士(医学)   |
| 学位記番号   | 甲総医博第63号   |
| 学位授与の要件 | 学位規則第4条第1項該当   |
| 学位授与年月日 | 平成29年5月16日   |
| 学位論文題目  | Preconception gynecological risk factors of Postpartum Depression among Japanese women: the Japan Environment and Children's Study (JECS).<br>(日本人女性における産後うつと妊娠前の婦人科系リスク要因 (JECS)) |
| 発表誌名    | Journal of Affective Disorders 217 (2017) 34-41 DOI: 10.1016/j.jad.2017.03.049   |

|      |    |    |    |    |
|------|----|----|----|----|
| 審査委員 | 主査 | 教授 | 奥原 | 義保 |
|      | 副査 | 教授 | 本家 | 孝一 |
|      | 副査 | 教授 | 安田 | 誠史 |

## 論文の内容の要旨

## 論文審査の結果の要旨

# 学位論文要旨

氏名 MUCHANGA SIFA MARIE  
JOELLE

論文題目 **Preconception gynecological risk factors of Postpartum Depression among Japanese women: the Japan Environment and Children's Study (JECS).**

日本人女性における産後うつと妊娠前の婦人科系リスク要因 (JECS)

(論文要旨)

## 【背景】

産後うつ病 (PPD) は、出産年齢にある女性の障害の主要な原因の 1 つある。PPD に関する先行研究の多くは、その危険因子として心理社会的要因、精神疾患の病歴、一部は産科状態に焦点を当てており、身体的条件には殆ど焦点が当てられていなかった。身体条件の 1 つである婦人科的病的状態もまた PPD に影響を与える可能性があり、産後期間中の女性では、過去の流産および月経前症候群について、うつ病との関連が研究された。本研究の目的は、PPD とその他の先天性婦人科的病的状態との関連を調べることである。

## 【研究方法】

研究デザイン：本研究で扱ったデータの元となったのは、人口ベースの前向き出生コホート調査であるエコチル調査 (JECS) である。

参加者：妊婦は 2011 年 1 月から 2014 年 3 月の間に、母子保健センターや産科医療機関でリクルートされた。

組込基準：エジンバラ産後うつ病尺度 (EPDS) に回答し、収入についての情報を記入した、単胎の生産児を出産した女性を組込んだ。

除外基準：死産、多胎妊娠、妊娠中のうつ病、収入に関する情報を提供しなかった女性、EPDS アンケートに回答しなかった女性を除外した。募集期間中に 2 回以上研究に参加した女性のデータは最後に参加した時のものを用い、残りは除外した。

アウトカム：産後うつ病の測定は、EPDS の日本語版を使用して出産後 1 ヶ月で実施した。

曝露因子：現在の妊娠の開始前の先天性婦人科的病的状態を診療情報の転記ないし自記式質問票により収集した。

共変量：精神疾患の病歴、心理社会的要因等を用いた。

統計解析：結果変数は PPD であった。すべての分析は、多重代入法で独立変数および共変量の欠損値を補完して含む最大サンプルを使用して行った。群間の差の検定には、カイ 2 乗検定および対応のない t 検定を、関連性の評価には、単純かつ多重ロジスティック回帰分析を用いた。

有意水準は 0.05 に設定した。すべてのデータ分析は、Stata 14.0 for Windows で行った。

### 【結果】

調査対象者 88,489 人のうち、11,341 人（14%）が PPD 群となった。過去の流産、平滑筋腫および多嚢胞性卵巣症候群以外の婦人科的病的状態について、PPD 群は対照群と比較して高い有病率を示した。ロジスティック回帰の最終モデルでは、子宮内膜症（OR、1.27; 95%CI : 1.15-1.41）、月経困難（OR、1.13; 95%CI : 1.06-1.21）および異常子宮出血（AUB）（OR、1.21; 95%CI : 1.15-1.29）は、独立して産後うつ病と関連していた。

### 【本研究の強みと限界】

強み：本研究は、人口ベースの大規模コホート研究である JECS のデータを用いている。

制限事項：本研究は、JECS の中心課題ではないため、どのタイプの婦人科的病的状態が PPD に関連しているかを詳細に特定することはできなかった。また、




婦人科的病的状態の一部は自記式質問票によって収集された。

臨床的意義：現在、婦人科的病的状態は、精神疾患の病歴や心理社会的要因とは異なり、産後うつ病の危険因子として日常的には考慮されていない。我々の知見は、これら婦人科的病的状態が、PPD の予測因子や介入のためのマーカーとして価値があることを示唆している。また、リスク要因の多くはホルモン関連であるため、ホルモン療法が有用である可能性があることを示唆している。

### 【結論】

子宮内膜症および月経困難を有する女性は、産後うつ病を発症する危険性があった。

論文審査の結果の要旨

|      |      |       |   |
|------|------|-------|---|
|      |      | 氏名    | MUCHANGA SIFA MARIE JOELLE  |
| 審査委員 | 主査氏名 | 奥原 義保 |  |
|      | 副査氏名 | 本家 孝一 |  |
|      | 副査氏名 | 安田 誠史 |  |

題 目 Preconception gynecological risk factors of Postpartum Depression among Japanese women: the Japan Environment and Children's Study (JECS).

(日本人女性における産後うつと妊娠前の婦人科系リスク要因 (JECS) )

著 者 Sifa Marie Joelle Muchanga, Kahoko Yasumitsu-Lovell, Masamitsu Eitoku, Etongola Papy Mbelambela, Hitoshi Ninomiya, Kaori Komori, Rahma Tozin, Nagamasa Maeda, Mikiya Fujieda, Narufumi Suganuma, for the Japan Environment and Children's Study Group.

発表誌名、巻(号)、ページ( ~ )、年 月  
 Journal of Affective Disorders 217 (2017) 34-41  
 DOI: 10.1016/j.jad.2017.03.049

要 旨 【背景と目的】

産後鬱病(Postpartum Depression:PPD)は、出産年齢にある女性の障害の主要な原因の一つである。PPD は出産後の女性に障害をもたらすのみならず、生まれた子供の健康に対してもネガティブな影響を与えるため、広く研究され、様々な危険因子が報告されている。PPD に関する先行研究の多くは、その危険因子として心理社会的要因、精神疾患の病歴、また一部は計画外妊娠、早産などの産科的な状態に焦点を当てており、これまで身体的な条件には殆ど焦点が当てられていなかった。しかしながら、身体的、生物学的、文化的な要因と PPD との関係の研究の必要性も言われている。身体的条件の一つである婦人科的病的状態もまた PPD に影響を与える可能性があるが、産後の女性については、過去の流産または月経前症候群と鬱病との関連が研究された例を除いて、妊娠前のその他の婦人科的な条件と PPD の関係について評価した研究は存在しない。このため、申請者等は、大規模な前向き出生コホート研究のデータを用い、出産後 1 か月における PPD

と婦人科的病的状態との関係を調べる研究を行った。

#### 【研究方法】

申請者等が用いたのは、日本全国にまたがる大規模な前向き出生コホート研究である「子どもの健康と環境に関する全国調査（エコチル調査）」(Japan Environment and Children's study:JECS)研究のデータである。

JECS 研究に参加した妊婦は、2011年1月から2014年3月の間に、母子保健センターや産科医療機関でリクルートされた。そのうち、単胎の生産児を出産し、エジンバラ産後鬱病尺度(EPDS)に回答、収入についての情報を記入した女性が本研究に組み込まれた。

死産、多胎妊娠、妊娠中の鬱病、収入に関する情報を提供しなかった女性、EPDS アンケートに回答しなかった女性は本研究から除外された。また、募集期間中に2回以上研究に参加した女性のデータは最後に参加した時のものが用いられ、残りは除外された。

アウトカムとしての産後鬱病の測定は、EPDS の日本語版を使用して出産後1か月で実施し、暴露因子は、現在の妊娠開始前の婦人科的病的状態を診療記録よりの転記ないし自記式質問票により収集した。

統計解析における結果変数はPPDの有無であり、共変量としては、精神疾患の病歴、心理社会的要因、産科的要因等が用いられた。すべての分析は、多重代入法によって独立変数および共変量の欠損値を補定して、含まれる最大のサンプルを使用して行われた。群間の差の検定には、カイ2乗検定および対応のないt検定を、関連性の評価には、多変量ロジスティック回帰分析が用いられた。有意水準は0.05であり、すべてのデータ分析は、Stata 14.0 for Windows を用いて行われた。

#### 【結果】

調査対象者88,489人のうち、11,341人(14%)がPPD群と判定され、過去の流産、平滑筋腫および多膿疱性卵巢症候群以外の婦人科的病的状態について、PPD群は対照群(非PPD群)と比較して高い有病率を示した。ロジスティック回帰の最終モデルでは、子宮内膜症(オッズ比(OR),1.27;95%信頼区間(CI):1.15-1.41)、月経困難(OR,1.13;95%CI:1.06-1.21)および異常子宮出血(OR,1.21;95%CI:1.15-1.29)が、統計的有意であり、独立してPPDと関連していた。

#### 【考察】

現在、婦人科的病的状態は、精神疾患の病歴や心理社会的要因とは異なって、産後うつ病の危険因子として日常的には考慮されていないが、申請者等の知見は、これら婦人科的病的状態が、PPDの予測因子や介入のためのマーカーとして価値があることを示唆している。

本研究のテーマは JECS の中心課題ではないため、どのタイプの婦人科的病的状態が PPD に関連しているかを詳細に特定することはできないといった限界はあるが、大規模コホート研究である JECS のデータを用いているという強みがあり、結果に対する信頼性は高い。

以上のように、本論文は、大規模コホートデータを用いて、妊娠前の婦人科的病的状態が PPD に関連していることを初めて示したものであり、子宮内膜症、月経困難および異常子宮出血がリスク因子であることを見出した。これらのリスク要因はホルモン関連であるため、ホルモン療法が有効であることを示唆しており、今後の治療法の探索にも貢献することが期待される。よって、審査員一同は本論文が高知大学博士（医学）に相応しい価値あるものと判断した。